

An abstract geometric background on the left side of the page, composed of many small triangles in various shades of red, orange, yellow, and blue. A large, white, stylized number '2' is centered within the upper portion of this background.

2

わたしたち京セラについて

1. 数字で見る「いま」の京セラ	P.09
2. 成長の軌跡	P.10
3. 京セラフィロソフィから生まれる未来の技術1	P.11
4. 京セラフィロソフィから生まれる未来の技術2	P.12

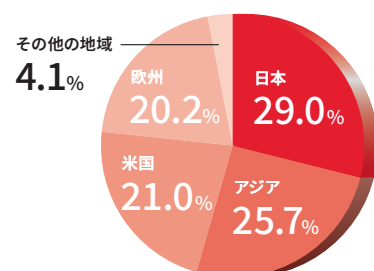
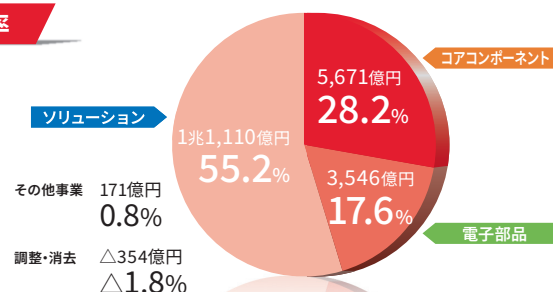
At a Glance ～京セラグループの“いま”～

さまざまなデータや数値で客観的に、京セラグループの現在の姿をお伝えします。

セグメント別・地域別売上高比率

2025年3月期
売上高

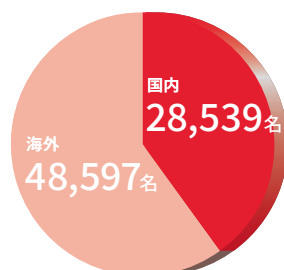
2兆145億円



グループ従業員数 ※1

グループ従業員数

77,136名



税引前利益



636億円

1株当たり当期利益



17.1円

育児休業取得率 ※2,3 (男女別)



34.2%
63.8% 社内制度(積立年休) 利用を含む取得率



100%

社外取締役比率 ※2, ※6



4名/11名 36%

女性取締役比率 ※2, ※6



2名/11名 18%

女性管理職比率 ※2



180名/3,092名 5.8%

Scope1,2 ※4 総量削減率 (2019年度比)



14%

Scope1,2,3 ※5 総量削減率 (2019年度比)



26%

※1 持分法適用子会社、持分法適用関連会社は除く
※2 京セラ株式会社

※3 期間中に育児などを利用した男性従業員の数/期間中に配偶者が出産した男性従業員の数
期間中に育児などを利用した女性従業員の数/期間中に出産した女性従業員の数

※4 Scope1: 燃料使用に伴う直接排出
Scope2: 外部から購入する電力や熱の使用に伴う間接排出

※5 Scope3: Scope1,2以外の間接排出(原料調達、輸送、使用、廃棄、従業員の通勤、出張など)
※6 2025年6月26日現在

時代とともに、企業として成長し、次代へ。

創業以来、時代の移り変わりとともに事業を育て、領域を広げ、企業として大きな発展を続けてきた京セラの、成長の軌跡。

1959

京都セラミック株式会社として創業

1984

第二電電企画(株)を設立(現:KDDI(株))

2000

三田工業(株)が京セラグループに参加

2020

AVX Corporationを完全子会社化
(現:KYOCERA AVX Components Corp.)

1969

米国現地法人
KYOCERA International, Inc.を設立

1989

エルコグループが京セラグループに参加

2003

●キンセキ(株)を完全子会社化
●京セラSLCテクノロジー(株)を設立

2021

米国Sora Laser Diode, Inc.が
京セラグループに参加

>1960 >1970 >1980 >1990 >2000 >2010 >2020

1971

ドイツにFeldmühle社と合併会社を設立
(現:KYOCERA Europe GmbH)

1990

AVXグループが京セラグループに参加

2010

ソニーモバイルディスプレイ(株)野洲事業所の
TFT液晶ディスプレイ事業を承継

1975

ジャパン・ソーラー・エナジー(株)を設立し、
太陽電池の開発を開始

1995

京セラコミュニケーションシステム(株)を設立

2011

ベトナムにKYOCERA Vietnam Management
Company Limitedを設立

1979

サイバネット工業(株)に資本参加

1999

米国Qualcommから携帯電話事業を承継

2018

リョービ(株)の電動工具事業を承継し、
京セラインダストリアルツールズ(株)を設立

□ 売上高の推移



技術の水平展開

事業の多角化

M&Aによる
事業領域の拡大

グローバル市場での事業拡大

付加価値の創造 /
新たな事業モデルの構築

自然との共生を目指して、 社会課題解決へ挑む



FOREARTH[※]

1980年代から取り組んできた「地球にやさしいプリンター」の開発

1980年代からプリンターを開発・販売していた京セラは、さらに「京セラにできないプリンターの開発」を追求し環境性能に着目。部品の長寿命化により、部品や消耗品の交換・廃棄を大幅に削減するとともに、お客様に経済的なメリットを提供する技術開発コンセプト「ECOSYS(エコシス)コンセプト」を確立し、1992年に初代ECOSYSプリンターを開発しました。このプリンターは日本ではオフィス機器業界初となる「エコマーク」を取得した他、ドイツの「ブルーエンジェル」、スイスの「エナジー2000」、米国の「エネルギースター」など数々の環境規格の認定を受けることとなり、世界各国から「地球にやさしいプリンター」として高く評価されました。



環境性能にさらなる進化

産業排水、CO₂排出、大量廃棄問題の解決に貢献する「FOREARTH(フォレアス)」

「ECOSYSプリンター」の開発から約30年、京セラの地球環境への思いはサステナブルな未来の実現へと受け継がれ、紙以外の素材にプリントする産業印刷分野にも展開。生地にプリントする捺染インクジェットプリンター「FOREARTH(フォレアス)」の開発へとつながっていきました。従来の捺染工程で必要とされた大量の水を使用するスチームや洗浄の設備機器が不要となり、水の使用量はほぼゼロを実現し、CO₂排出量も削減。また、大型の設備機器が不要であるため設置場所を選ばず適地・適量生産ができ、過剰生産による大量廃棄問題の解決にも貢献します。



クリエイティブの可能性を広げ アパレル業界の新たな価値創造に貢献

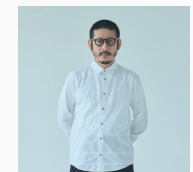
京セラ独自開発の水系顔料インクと前後処理液を使用し、綿・シルク・ポリエステル・ナイロン・混紡など、生地に合わせてインクを交換することなくさまざまな生地へのプリントを実現。さらに高性能なインクジェットヘッドユニットが生地本来の柔らかさを保持します。また、版の制約を受けないデジタル捺染ならではの自由度で、高発色・高精細な多様なデザインのプリントが可能。レディース、スポーツ、キッズ、ホームテキスタイルなどの幅広いカテゴリーに対応し、クリエイティブの可能性を広げ、繊維・アパレル業界の新たな価値創造に貢献します。



FOREARTHコンセプトに共感する声

FOREARTHが切り拓く新たな表現の可能性と、 22世紀へつながる未来のものづくり

これまで服作りを続ける中で、プリントに大量の水を使うことが当たり前でしたが、FOREARTHで印刷した生地は水をほとんど使わずに繊細で鮮やかな表現ができ、テキスタイルの風合いも損なわず、しなやかなまま残っていることに感動しました。ファッションやクリエイションの進化には新しいテクノロジーが必要だと考えています。FOREARTHによって今まで表現できなかったことも表現できるようになりますし、それをこれからの未来、22世紀につなげていくということが、自らのものづくりにとって大事なこととなっています。



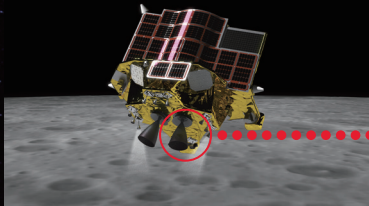
ANREALAGE 創業者、デザイナー
森永 邦彦 氏

ファッションブランドANREALAGEの創業者でパリ・ファッションウィーク®に11年連続参加するなど、国際的な舞台で活躍する、日本を代表するファッションデザイナーです。京セラとは数多くのコラボレーションを実施。パリ・ファッションウィーク®で、FOREARTHのプリント生地を使用したドレスを発表しました。

※パリ・ファッションウィーク®は、Fédération de la Haute Couture et de la Mode(フランスオートクチュール・プレタポルテ連合協会)の登録商標です。

※「FOREARTH」は、京セラ株式会社の日本またはその他の国における登録商標または商標です。

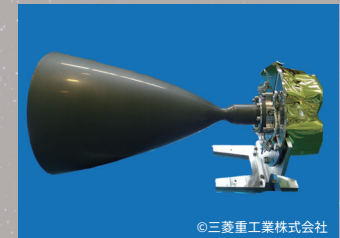
次代を拓くために、ファインセラミック技術で宇宙産業へ貢献



©宇宙航空研究開発機構

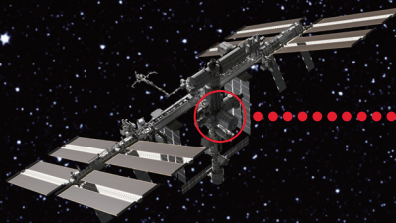
小型月着陸実証機 (SLIM) の月面着陸成功に貢献

将来の月惑星探査に必要な高精度着陸技術を小型探査機で実証する計画・SLIM (Smart Lander for Investigating Moon) プロジェクトにおいて、小型月着陸実証機のメインエンジンの主要構成部品のひとつであるセラミックスラスタに京セラのセラミック燃焼器が採用されました。セラミックスラスタとは、軌道制御や月面着陸時の速度制御などに使われるもので、京セラのセラミック技術により耐熱性が向上し、高性能化に寄与しました。



©三菱重工業株式会社

セラミック燃焼器



宇宙の通信を支える！京セラのファインコージライト®製ミラー、国際宇宙ステーションで世界初採用※1

衛星からの光通信によるデータを特定の地上局に送信するために必要となる光学ミラーでは、光の調整にナノレベルでの精度が必要となるため、長期にわたり安定した寸法精度を有すること、また、宇宙という過酷な環境下でも温度変化による変形を最小限に抑える低熱膨張性を活かした光学ミラーが求められます。そこで採用されたのが、京セラのファインコージライトミラー。低熱膨張性や長期寸法安定性など、独自の優れた特長が認められ、光通信アンテナへの採用に至りました。

※1 ISSに設置された小型光通信実験装置でのコージライト製のミラーの採用として(2024年 京セラ調べ)

※「ファインコージライト」は、京セラ株式会社の登録商標です。



ファインコージライトミラー

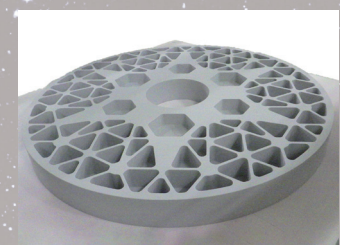


京都産業大学が所有する清木望遠鏡

世界初※2となる地上望遠鏡の開発を目指す

京セラは、世界初となるファインコージライトの大型軽量化鏡を搭載した反射望遠鏡の実現および赤外線天文観測機器におけるセラミック反射光学系の開発などを進めていくにあたり、「京都産業大学」「株式会社フォククロス」とともに取り組む包括協定を締結しました。次世代の地上大型望遠鏡(口径30メートル以上)や宇宙望遠鏡に搭載する赤外線観測機器の開発に向けて、京セラのファインコージライト素材を使った研究が京都産業大学の神山天文台にて進められています。

※2 コージライト製主鏡・副鏡が大型地上用望遠鏡へ搭載される点において(2024年7月末現在 京セラ調べ)



ファインコージライトの主鏡